



金倉川は江戸時代「榊梨川」と呼ばれていました。



満濃池から瀬戸内海へ 何度も川筋を変えた川

金倉川は長さ20.5km、流域面積60.2km²。水源は弘法大師空海が修築した満濃池で、まんのう町から琴平町、善通寺市と流れ、丸亀市西部で瀬戸内海へと注いでいます。

専門家の調査によると、川の流れと地表の傾斜分布が一致していないので、もともとの流れとは違って現在の川筋があるとも推察され、満濃池の灌漑用水として人工的につくられたという説もあるほどです。

善通寺市では市街を流れる中谷川をはじめ、金倉川の水が流れる川や水路が張り巡ら

されています。これらの水のネットワークは、水を確保するためだけではなく、水を分散させることで水害を防ぐ役目も果たしています。

町と駅の名は「金蔵寺」、寺は「金倉寺」と書いて「こんぞうじ」、川は「かなくらがわ金倉川」と呼びます。承平年間につくられた「和名抄」には「なかくんかなくらこう那珂郡金倉郷」の名前が残されています。周辺一帯は川の水を利用して米づくりが盛んで、川の氾濫から貯蔵した米を守るために高床式の倉があったと伝わります。それが金倉の由来です。また、金倉寺には、弥生時代の銅鐸に描かれた高床式の倉庫とそっくりの鐘楼が建てられています。